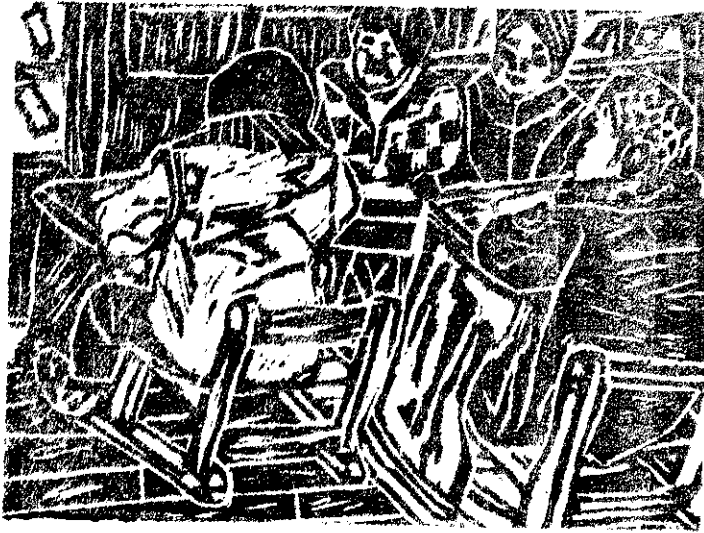


島三小
育友会報

が ん ば

・発行・
教養部会報班



五年 尾木鈴代

『卒業』

六年 渡部真弓

白くあたたかいおかあさんの手し

小さかった私の手とをつないで

校門をくぐった入学式

それから六年

先生に しかられたこともあったっけ

ほめられたこともあったっけ

友だちとけんかをして ないこともあったなあ

その時は とても悲しかった

その友だちをにくんでいたかもしれない

でも

もうそんなことを気にはしない

学校を出ても

やっぱり先生は先生なんだ

友だちは友だちなんだ

学校の先生 たん任の先生 教室さん

長い間お世話になりました

それから

三小全体にも あいさつをしなければいけないな

たいへん

お世話になりました……………とね

六年生の皆さん、「卒業おめでとう。六年前、お母さんに手を引かれて本校に入学した時の八ミリ写真を見せてもらったでしょう。その時の皆さんはまだ小さくて西も東もわからなかった。今は体も大きくなり、よいこと悪いことの判断もつき、およその読み書きはできるようになりまし。それは皆さんが六年の間努力したからです。いや、自分の力だけで大きくなったではありませんね。いちばんお世話になったのは何といっても二両親です。体のこと、

くさいわい住むと入のいっ...幸福をもとめて、美しい夢と希望をもって進まねばならぬ。それを一人でのり越えて行く力、その力を養わなければなりません。その力とは「健康と学問と精神」であり、自分をリ。ばにするものは自分であり、また自分をつまらぬ人間にしてしまうのも自分なのです。何ごとによらず、苦勞しないでかちとることはできません。自分をリ。ばにするためには苦勞という波、努力という波に、さんぶと、よるこんで自分をぶ。つけて行くことです。苦勞の波からのがれようとするものは、不幸という波にのまれてしまいうでしよう。らくな

卒業生におくる

学校長 松本 巖



両親のごおんはけ。して忘れてはなりません。「親のおんは山よりも高く海よりも深し」ということばのあるとおりです。つぎに愛持の先生や社会の人々にもお世話になっていることに感謝しなければなりません。いよいよ小学校というふしを越えて中学校という次のふし目にかかるといえます。いやいや、人生の道は高く遠く続いています。青い海、小高い丘、高い山、そびえる峯と、果てしなく続いているのです。その道を皆さんは一人で越えて行かねばなりません。山のかなたの空遠

こと、たのしいこと、美しいもの、うまいもの、あまいものには、謙しも心を引かれます。世の中がそんなにやさしく、かんたんなものだったら勉強も努力も必要ありません。皆さんしっかりがんばって、幸福で世の中の仕事に立つ人間になってください。皆さんのご多幸を心からお祈りします。三月十九日、卒業証を持つて帰ったら、二両親に「六年のながい間いろいろお世話になりました」とお礼をいうことですね。どんなにか二両親喜ぶるこはれるでしょう。

谷部 だより

*施設部

施設部長 谷口房三(桃山)

施設部の事業として、主なものをあげると、屋根の塗装、雨漏り修理、窓枠改修、保健室張り廊下、通学道路踏切りの設置、ピアノ購入等で、その要領を市当局に出してありましたが、何ぶん多額を要するものが多いし、市赤字財政への遠慮も手伝って多くの実現をみることはできませんでした。しかし、校舎雨漏り修理、体育倉庫の屋根の塗装、通学道路踏切り設置、児童の身長伸びに伴う机腰掛各五〇〇脚の調整修理は実現できました。給食用ミキサー、ピアノの購入についても明るいみとおしです。残りは来年度に引きつぎ努力してもらいたいと思います。

*生活部

生活部長 池田 真(南山)

生活部では、次のようなことについて話し合い、実践してまいりました。
 ○各町内での計画や実践のようすを出し合い、少年団のあり方について研究討論する。
 ○夏休みの生活指導。
 ○夏休みの反省。
 ○家庭学習のあり方、テレビの見方、正しいことばづかいについての話し合い。

*教養部

教養部長 山本篤五郎(川尻)

谷部先生や、班員の方々のご努力によって、今年度は、左記のような事業を行なうことができました。
 入給務班▽六月十日、熊本市の愛護教育視察の研修旅行を行いました。十月二十三日、県社会教育課長宮田先生の講演会を行いました。今年度からとりあげた「家庭会議」運動はまだ呼びかけ程度しかすすめることができませんでした。
 へ学級班▽校友会の各種会合、特に町内青友会の出席率向上の方法を研究し、その方法をお願いしました。更に、去る二月二十七日の「日曜日振替授業参観」のアンケートをまとめて、より一そうよいものにするよう検討を加えております。
 へ会報班▽班員皆さんの非常なご努力により、ごらんのようなりっぱなものができるようになりました。「うがんば」もいよいよ食べごろです。どうぞよく味わって下さい。
 へ文庫班▽学期に新刊書も購入して、また、夏休みの巡回文庫も、年を重ねることにますますたくさんの方々に利用していただくようになりまし。また、一般出し出しや町内巡回、篤志の方による献本などもたくさんふえています。
 以上の二報告と共に、部員の皆さんのご努力と、会報皆さんの協力で、厚くお礼を申し上げます。

実施された 日曜参観

「がんば」第二号で、学校参観についての小さなレポートをまとめた。その中から、私たちがいくつかの問題を掘り出しました。その一つに、父親を対象とした日曜参観日を設けて欲しいという声がありました。

これは、毎月十五日に学校参観されている母親のすべてに共通した意見でした。

このお母さん方の声がとりあげられて、三小では、二月二十七日の日曜日に学校参観が行われました。

約六五〇名の父兄が参観されましたが、これは全家庭の六五〇という数字になります。雨天であったことを合わせて考えますと、六五〇という数字が、いかに驚異的な数字であるかが、おわかりいただけると思います。しかし、まだこの数字の中に考えさせられる問題が含まれていました。一学校当り母親の参観数が二十人平均であったのにひきかえ、父親の参観数が十人の五人平均という低い数字に終わったことです。

この問題についての父親の意見を聞いてみました。日曜参観日といったような、あいまいな表現をさけて、父親参観日とし、そのような連絡を

流した。徹底する……という意見もかなり多かったようでした。しかし、これには反対の意見もありました。父親を対象にした日曜参観という主旨は通知してあることだし、忙しくて毎月日曜参観できない母親も、この日だけは参観できるような形のもの……つまり、今のままの表現が最も適切だ。要は教育に対する父親の熱意の問題だ……という声でした。子供たちの椅子にすわって一しよに給食をたべ、全体会議に参加した父兄の一人として、私たちは、この日曜参観が、三小から青友会のお父さん、お母さん方に対する、すばらしい贈りものであったことを実感としてうけとめました。

ここに、一枚の印刷物があります。『二年生の学年だより』の三月一日号ですが、その中に加藤先生が日曜参観のことを書いて下さっています。そのまゝ掲載させていただきます。

行つてよかった
日曜参観

「父親も、もっと家庭の中で、子供の教育に関心を——」
と。この主旨で、初めての日曜参観がもたれました。

どしゃぶりの悪天候にもかかわらず、一校時からぼつぼつお父さんの顔が見えはじめ、三校時がはじまる

ころには、木造校舎の新しい教室から、はみ出るほどの数になった。ふだんの参観日でおなじみの、おあさんの姿にまじって、はじめて見るお父さんの顔。

「はて、だれのお父さんかな？」
「はあ、口もが、K君によく似ているな。」
「うちのお父さんの頭は、少しはげかかっているの、すぐわかるよ。」
と、前日教えてくれた子供のことばを思い出して、

「はあ、H子さんのおとうさんだな。」
と思つたが、やはり的中した。

● 先生は、どんなふうに教えているのだろうか。

● 自分の子供は、きちんとすわつて、先生の話を聞いているのだろうか。

● 自分の子供は、はずかしがらずに発表できるだろうか。

● 家庭と学校での自分の子供のちがいは、どんなところにあるだろうか。

など、さまざまな期待をもつて参観された。
はじめてのお父さん方が、口をそろえて、
「自分の子供の勉強ぶり、学校の教え方がよくわかって、参観したかいがあった。」
と、しみじみ述べられることばを聞

いて、
「よかった。」
という感を深くしました。
給食後の全体会では、校長先生から「子供の家庭での先生である父親母親が、確固たる指導性をもって子供の範となるような家庭をまづいて欲しい。」

といった意義深い話のあと、お母さんの「アップ・イクオール・ラブ」がとび出して、満場をわかせました。最後に、
「今日の子供たちを見てみると、家に帰ってしからなくてはいけないうようなことはかりで、ふくふくしているが……。」

という父親の質問をうけて、
「子供の良かったところをほめて、どうしても注意しておかなければいけないことを最後にひとつ、というように、ほめることをふやしてほしい。」

という教頭先生の答弁があった。
初めての試みが好評だったということで、今後また日曜参観が計画されると思いますが、せめて、そんな日なりと、お父さん方に多数出席していただきたいものです。

参観して下さったお父さん、お母さん、午前中は立ちっぱなし、午後八時おつかれさまでした。



日曜参観に参加されたお父さん方の中から、次の方々にお集まり願って、いろいろと御意見を聞いてみました。

- 阿部 哲也氏(下川尻)
 - 高木 進氏(南風泊)
 - 浜崎 竹一氏(浦田下)
 - 森本 正氏(坂上)
 - 前田 寿秀氏(皇船津)
 - 馬場 芳光氏(浦田上)
 - 古瀬 帝氏(中組)
 - 上田 幸盛氏(新山)
- その御意見を、いくつか、とりあげてみたいと思います。

- ☆ 私の場合は、子供が日曜参観の通知を持ってきたのだが、父親が行かねばならぬということだった。来てみると、男は私が入りで、あと曰奥さんばかりで、てれくさかった。あとでは男も四、五人になったが、折角設けられた日曜参観なのだから、意見を考えても、もっと多くの父親が参加すべきだ。
- ☆ 始めて参観した。本当によかったと思う。年三回ぐらいは、日曜参観日を設けてほしい。
- ☆ 良かった。今まで子供の勉強を見てやる場合、指導要領がわからぬままに教えていたが、今日参観して、よくわかった。月一回は必ず参観したい。
- ☆ 教室の後で、二時間、立ちながらの参観だったので疲れた。奥さん方は、中かがみになって居られたが、あれでは大へんだ。長椅子の一脚でも準備できないものか。

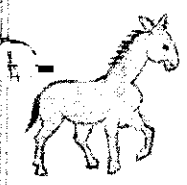
- ☆ 先生がどういう方法で子供に教えて居られるのか。家庭の親として、どんな心がまえでおれ、ばいのかを知りたかったが、よくわかってうれしかった。はじめての参観だが、今後も、つとめてくる。
- ☆ 父親の参加が少なすぎる。これまでのように、子供たちからだけの通知じゃ不徹底だ。町内代議員が議題に出して、先主方からも強く呼びかけて欲しい。
- ☆ 父親にアンケートを書かせる。その内容も、学校参観の経験のない父親には書けぬようなものにしたら、参観に来るようになるのではなないか。
- ☆ 関心はあるのだが、仕事があるから、男では子供の教育まで見てやれないのが実状だ。朝晩と子供に接する機会が母親が多いのだから、結局は女まかせの形になるのだ。だが、これからは、つとめて出席したいと思う。
- ☆ 父親参観日と呼称をかえて徹底させるのが第一だ。
- ☆ つとめがあるが、毎月十五日、学校参観できない母親もいるのだから、今のままがいいと思う。

授業参観についての調査結果

- 一、日曜振替の授業参観について、よかった(94%)よくなかった(6%)
- 二、参観の回数について、月一回(32%) 学期一回(62%) 年一回(6%)
- 三、第何週の日曜をのぞむか、いつでもよい(46%) 三週(20%) 二週(13%)
- 四、授業参観の意見について、
 - 大変有意義であった。
 - 父親の出席をのぞむ。まだ母親が多い。
 - 子どもと共に学べ、よかった。
 - 算数、国語、社会など家庭指導のからになってよかった。

はじめて参観できてよかった。其後ぎの者が大助かり。毎月十五日の参観も今日のように熱心に多数参観してもらいたい。その中に子どもに対しての理解が深まるだろう。

以上のように、第一回の授業参観は大変好評でした。今後の出席率の向上と、男子の出席がよくなることを望みます。



ベルマークに 御協力を.....



上田金作さん。

私は今、机の上にニューヨーク・シ
タイの地図をひろげて置き、あなた
への手紙を書いています。

あなたが住んでおられるレキシント
ン・アヴェニューは、マンハッタン
島、それもいわゆるマンハッタン区
とよばれる市の中心部なので、私に
も、すぐ地図の上で拾えました。

そう、私はまだ上田金作さんにお
会いしたことはありませんけれど、
私はあなたを、よく知っています。

いや、私にとって、上田さんは、忘
れられない人なのです。何故か。そ
れは、私が、三小出身だからなので
す。あなたは、私を御存知ない。で
も、私……いや、私たち三小出身者
は皆あなたを知っています。

三小の校長室に入ると、松本校長
先生の机の背にあたる白壁に、歴代
校長先生の写真が並べてかけられて
います。そのお写真と並んで、左端
に飾られた唯一枚のカラー写真……
それが上田さん、あなたのお写真な
のです。校長室に入って、まず目に
入るのが、三小の後壁にやさしいほ
ほえみを投げかけているあなたのお

写真です。

上田さんがアメリカに渡られたの
が今から四十六年前のことだと聞き
ましたから、上田さんもまだ27才の
青年だったことになりましたね。大正
九年といえは、私はまだ生をうけて
いない時代です。当時から今日まで、
太平洋戦争という忘れられぬ苦難の
時代を境として、アメリカでのおく
らしは私たちには想像もつかない、
さまざまなおありになったこと
とでしょう。そうした中で、あなた
はいつも母校である三小のことをお
忘れにならず、遠く太平洋をこえて、

母校愛 太平洋を越えて

——上田金作さんへの手紙——

母校愛あふれる数々のプレゼントを
送って下さいました。あなたの愛の
贈りものは、昭和十年以来つづいて
いるのですから、当時あなたのこと
を先生の話で聞いて育った生徒も、
もう四十才平均になる訳です。

現在も三小の校庭にたつて、生徒
らに無言の教育をたれている二宮金
次郎の銅像は、親が折にふれて子供
たちに話す上田さんの話と重なりあ
つて、三小のシンボルの一つとして
永く記念されることでしょう。

あなたからの愛の贈りものは、今日
まで絶えずつづき、それによって購

入されたよい子たちのイキや、それ
によって建てられた記念碑を囲んで
おどろあがって喜んだ子供たちの声
は、その折々の校長先生のおたより
に托されて空を飛び、海を渡り、上
田さんの目にふれ、耳に入ったと思
います。

そして、今年の一月二十七日、あな
たから松本校長先生にあてて送られ
た小さな包みの中に入っていたもの
——、そうです、渡米されて以来、
四十六年間、肌身離さずあなたが愛
用されたという『チヨボクレ』の贈
りものは、島原新聞に大きく報道さ

れて、三小地区住民のみならず、全
市民に大きな反響をよびました。
それは、早朝のノックにも似た、さ
わやかさを伴なって、私たちを感動
させました。

この贈りものは、三小にとって、何
ものよりずばらしい贈りものとなりま
した。私たちは、松本校長先生の
『チヨボクレ』に寄せられた談話を
読み、上田さんの記事で二面のほと
んどを埋めつくした郷土新聞の活字

の匂いをかいで、今まで忘れていた
何かをとり戻すことができました。
上田さん、あなたは、おたよりの中

で、『私は妻もなく、子もなく、今
更日本に帰っても住む家もなく、帰
親兄弟があるわけでもない』ので、帰
る気はありません』と書いていらっ
しゃる。

上田さん、私は、みんなに代わって
あなたに申し上げたいのです。

あなたは独りぼっちじゃない！ 昔
から『第三のガッパ(河童)』とよば
れた、元気で、腕白で、おてんばで、
おりこうな千数百の三小のよい子た
ちが、あなたにはいるのですよ。

あなたのことを耳の底に記憶してい
る三小地区の青友会員が、上田さん
あなたにはいるのです。

歳月を経ても、赤ん坊の瞳のように
澄んで美しい島原の山や海があなた
の故郷なら、新学期を目前にして、
つぼみをふくらましかけた、桜に包
まれた三小こそ、上田さん、あなた
の家であることを知って欲しいので
す。

ニューヨークの天候は変わりやす
いと聞いていますが、三月など、驚
くほど温和な日和が続くそうですね。
今は、『ローレンス・ビーチ・クラ
ブ』でお働きのことと思いますが、
どうか御健康にくれぐれも気をつけ
られて、お元気でお暮らし下さるよ
うにお祈りしています。

上田さんに、三小出身の一人として、
心からの感謝をささげつつ筆をおき
ます。どうか、お元気で。

(てい一郎・山本)

学校だより

保 健 部

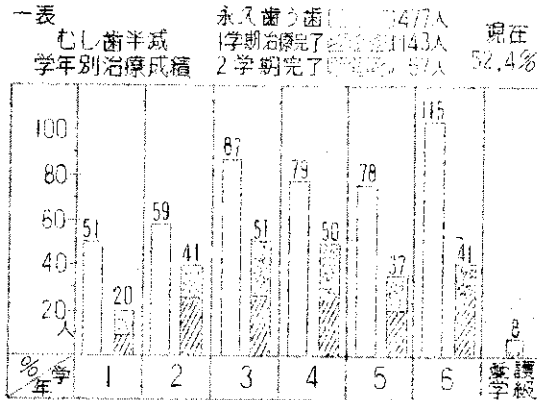
むし歯予防について

本年度の努力目標はむし歯半減で完全治療をするということであるが、進めてまいりましたが、なかなか学校と家庭と児童とが一体とならなければ達成することができません。

本年度定期健康診断の結果むし歯の罹患は三二一人、むし歯のない児童が一七三人、完全に処置をしている児童が一二人、本年度永年歯の治療を要する児童が四七七人、低学年より高学年になるにたがって永年歯のむし歯が多くなっていますが、お子さんの健康を守るには、まず歯から、むし歯一本でも健康度からいいますと、一本もない児童からみれば低い健康度になるわけです。子どもさんの健康は常に高い健康度を保つよう家庭でも気をつけていたいただきたいと思えます。むし歯を予防するには食後のうがい夜の歯みがき、歯のためによい食べ物、むし歯を早くみつければ痛みがないうちに早期に治療する措置を身につけさせ、常にお子さんが健康で学習が進められるように守ってあげてください。

一表はむし歯の治療状況です。二表は本年度二回検診していただきましたが二月二十二日現在までに治療ができなかった家庭調査をいたしてみました。

弱いお子さんをお持ちの家庭では、ほんとうとか痛がるからおそろしがるとか、いって治療ができていないようです。



二表 歯未治療家庭調査

項目	1	2	3	4	5	6	計
1 治療中	1	4	2	5	10	23	45
2 治療済	2	3	2	3	3	7	20
3 痛	4	4	9	1	6	9	33
4 むし歯	4	1	1	2	3	6	17
5 お金がない	1	1	0	0	1	3	6
6 その他	8	8	22	17	8	20	83
計	23	20	37	27	31	74	212

編集後記

皆様お変わりございませんか。後のつぼみもふくらみはじめ、卒業式も間近になりました。

今まで愛読していただきました会報「がんば」の第三号をお届けするに当たって、我々会報班一同も、新しい会報班の方々にバトン・タッチして、メンバーが一更新することになりました。

「がんば」が誕生するまでは、皆様から寄せられた沢山の会報名の中から、やっと選び出されたこの「がんば」を編集するたびに、いろいろな苦心がありました。また、楽しみもありました。

なかでも、班長が、よきリーダーとして、どしどし、片づけてくれたので、我々未経験者は、大いに助かりました。

一、二、三号の「がんば」に、みごとな似顔絵や、カットを描いてくださった佐藤先生には、本当に感謝のほか、ございません。会報班一同心からお礼を申し上げます。

島原は、いよいよ「がんば」のメンバーに入りましたが、私たちは、第三号でお別れです。内容の充実した「がんば」を腰一ぱいたべてお別れしたかたのですが、潮時もありましたので、この辺でお別れしたいと思います。

本当に、長いようで短い一年でした。今まで御愛読いただきましたことを、深く感謝いたします。

私たちのバトンを受けられる新しい顔ぶれの会報班の方々にも、私たち以上の御声援をおくって下さいまして、三小育友会に生まれた「がんば」のすこやかな成長のために、一層の御愛読を、私たち一同心よりお願い申し上げます。(田口勝)

- 加藤勝彦
- 谷口三矢
- 草野洋子
- 山本佛一郎
- 田中十郎
- 小鉢京
- 本田幸男
- 田口勝
- 坪田勤次郎
- 加藤一美
- 遠武照子
- 緒方喜十

『がんば』第三号
島三小育友会教養部会報班
昭和四十一年三月十日 発行
印刷 東村 進